

新しい日本免震構造協会の課題

社団法人日本免震構造協会会長 中野清司



今年の4月から当協会は社団法人として新しい出発をすることになりました。当面の課題は、当協会が6年前に設立された当時の「初心」に戻るのだと思います。新しい技術に対する新鮮な好奇心と情熱が当協会の最初の出発点であり、また最後の目標であるはずで、協会の活動を支える財政基盤は参加企業に負うところが大きいわけですが、活動の内容は「新しい技術」を世の中に出すためのボランティア活動であり、会員企業は全く営利的な見返りを期待していません。世の中の「業界団体」と一線を画していることを改めて強調しておきたいと思います。それでは「学術団体」や「職能団体」と同じ様なものかという点、これらとも異質なものです。両団体とも結局は構成員の資質を高めることを目標にしていますが当協会の目標は構成員の持っている技術的なポテンシャルを活用して「世の中の技術的水準を高める」ことにあります。

ボランティア活動については昨年「特定非営利活動促進法」が公布され、厳密な定義が与えられています

ので、当協会の今後の活動の目標としてボランティアとかNPOとかの用語を使うことはよほど注意しなければなりません。「自分のことは自分です」という姿勢は共通していると思います。利益に繋がらないこと、面倒なことは何でも「政府におまかせ」では豊かな社会は作れません。免震構造について一番よく知っている技術者が免震技術の健全な普及に努めるのは当たり前のことであり、丁度かつては自分の家の前の道は自分で清掃していたようなものです。この当たり前のことを役所の清掃課の仕事だという考え方が行政の肥大化に繋がっていることは自明です。建設技術が進歩し、ますます複雑多岐になっている今日、技術者の自助努力は益々重要になってきているといえます。今回の法人化の許可によって当協会の活動が一層円滑になり、社会貢献の実をあげうることを確信しております。

(東京電機大学 名誉教授)